

◎「二十歳のつどい」フォトレポート

第61回

# 添田町 二十歳のつどい

図 役場総務課総務係 (☎ 82-1231)



生が「最後の授業で皆さんに贈った言葉『これからの社会をつくるのは皆さんです。そのために立派な大人になってください』。立派な大人、こういった大人が立派なのか私もまだ分かりませんが、近所の方々や子どもたち、家族から『立派やねあんた』と言われるような大人になってください」とそれぞれお祝いの言葉を贈りました。

式典の最後には、浦野獅龍さん（豊川）が、中学2年生の時に20歳になった自分へ向けて書いた手紙「二十歳のキミへ」を読み上げ、木森翔也さん（中津野）が「私たちはここ添田町で美しい自然とともに成長してきました。先生方や地域の皆様のご指導と、家族からの温かい愛情を受け二十歳を迎えることができました。今日の感動を忘れることなく心に刻み、社会人としての責任と自覚を持ち、さらなる努力と研さんを続けながら、それぞれの大きな夢に向かって一歩一歩前進していきます」と謝辞を述べました。

それぞれの胸に刻まれた思い出と感謝の気持ちはこれから歩む人生の大きな支えとなることでしょう。ふるさと添田町で育った誇りを胸に、一人ひとりが自分らしい未来へ向かって、力強く羽ばたいていくことを期待しています。

風が強く冷え込み、冬の厳しさを感じた1月11日、オークホール玄関前には「二十歳のつどい」に出席するため、晴れ着などで華やかに装った58人の二十歳を迎えた皆さんが集まりました。吐く息が白くなる寒さの中、久しぶりに再会した友人やその保護者、恩師と言葉を交わす姿が見られ、穏やかな笑顔があちこちに広がり会場周辺は、冬の寒さを忘れるほどの温かな空気に包まれていました。

式典の最初に寺西町長が激励の言葉を述べ、来賓を代表して畠田町議会議員、神崎県議会議員、株式会社山口油屋福太郎樋口代表取締役社長の祝辞のあと、会場に駆け付けた中学時代恩師で当時3年1組担任の有本佳苗先生が「これから先、色々なことがあると思いますが、友だちや家族、周りの人々を大切にして自分を大事に、毎日生きていくください」と、2組担任の鎌田季紗先生が「二宮金次郎像に落書きをして校長先生に怒られ、みんなできれいにしたことを思い出します。どんなに傷ついても、泥だらけになっても咲いた花は美しい。皆さんもそんなことがあっても自分の個性は輝いているということを忘れないでください」と、3組担任の植田泰司先